



ふくおか【Good】農業人100

主な農産物／ナシ、ブドウ、モモ 他

# 松木 慎介さん (29歳) (営農地／京都郡みやこ町犀川)

## より多くのフルーツを、より多くの人々へ

《就農のきっかけ》

### 山梨県の観光果樹園で ノウハウを学び、就農を決意

農業はやりたくない、と子供の頃は思っていた松木さん。将来コンピュータ関係の職を目指して、地元工業高校に通いました。

しかし、高校卒業後の進路を真剣に考えたとき、やはり家業の観光果樹園を継ごうと決意し、県農業大学校に入学しました。県農業大学校では果樹を専攻し、卒業論文では「ブドウの無核化」に取り組みましたが、就農する前にもっとブドウのことを勉強したいと思い、先進地である山梨県一宮町で一番大きな観光果樹園で、2年間研修を受けました。

そこで、ブドウ、モモそして観光果樹園運営のノウハウを学び、本格的に観光果樹園をやっていくと決意しました。

《これまでの過程》

### まずは、ブドウを作りこなす

就農して8年になる松木さんは、ブドウ栽培を主体的に取り組んできました。ナシの一部を伐採し、ハウスを建てて、ブドウのブラックオリンピック(有核)、ピオーネ(無核)、安芸クイーン、シャインマスカットの栽培に取り組んできました。苦労したのはハウス栽培の温度管理でした。特に盆前の需要の高い時期に収穫できるよう栽培管理を進めてきたのですが、なかなかうまくいきませんでした。

雇用管理にも気を使いました。特に休暇取得や効率のよい作業体系などです。

多品目なので細部まで手が回らず、管理が行き届かない品目もあるのですが、いいものが作れるように栽培体系、栽培面積を変えていきたいと思います。

ブドウの勉強のため、九州ブドウ愛好会研修会に年5回程度参加しています。「まずはブドウを作りこなすことです。」と語ってくれました。



プロフィール

■家族構成／本人、妻、子ども1人 ■営農年数／約8年  
■従業員数／18名 ■耕作(経営)面積／4.2ha  
■販路／直売、観光農園、直売所

《これからの展望》

### 一年中お客さんが来てくれる 観光果樹園を目指して

夏から秋にかけては、モモ、ブドウ、ナシ、イチジクなどの収穫物で充実しているのですが、冬から春にかけては、カンキツがあるだけで収穫物があまりない状態です。

また、果樹園内でレストラン「フルーツ工房えふ」を経営し、園内で採れた果物をふんだんに使ったカレーやスイーツを出しているのですが、冬場はお客さんがやや少ない状況です。この端境期にイチゴを導入して、一年を通して収穫物があり、レストランへも一年中多くのお客さんに来てもらえるようにしたいと思っています。そのためイチゴの施設設置、栽培技術の勉強と大変ですが、準備を進めていこうと思っています。



### Good 成功の ためのポイント

果樹の栽培技術は年数がたてば習得できるが、できた果実の売り方、マーケティングをどうするか重要となります。5年後、その先を読めることが大事で、人とは違う考え方を持つことです。現在4Hクラブ、商工会青年部に入っていますが、友達を多く作り、違う職種の人とも活発に交流を図ることが大事です。就農する前に色々な仕事をするこも、色々な経験が積めてよいと思います。